

宮城山岳通信 第32号

目次

巻頭言	支部長 2 頁
定例役員会報告 (3 月)	事務局 2~4 頁
宮城支部 山行報告	
☆ 厳冬期山行 (後烏帽子岳)	千石信夫 4~5 頁
☆ 早春山行 (西吾妻山)	鈴木泰子 5~6 頁
今後の行事予定	事務局 6 頁
編集後記	会報・編集出版委員長 . . . 6 頁

巻 頭 言

支部長 千石信夫

4月に入り、何かと忙しい時期をお過ごしのことと思います。宮城支部におきましても総会資料がお手元に届いていることと思いますが、令和6年度総会の開催が近づいてきました。今回は仙台市内の会議室で行われますが、普段お会いできない方々とお会いできれば幸いです。

さて近況ですが、3月に本部総会前の支部連絡会議が開催されました。その議題の一つに「日本山岳会の理念作り」が取り上げられております。定款3条に基づき山岳会の進む方向性をここで明確にして、今の時代に合った考え方で進めていきたいとのことでした。

そのスローガンは橋本しをり会長が薦める「みんなの山岳会」であり、そのビジョンは「すべての人に山の楽しさを」とうたわれております。その内容の一つに、安全登山のための登山教室を推進していくことが説明されました。宮城支部も今期は、公益事業の一環として登山教室を開催したいと考えております。今までの登山教室より趣向を変え、東京都山岳連盟の渡邊輝男氏を講師として招聘し、一般の登山者を対象にした、より安全に登山を楽しむためのセルフレスキューの知識を学ぶ教室といたします。

基礎知識と言っても技術は日々進歩し、そして使われなければ忘れることは人間の性であります。習得者の方はおさらいをさせていただき、初めての方は身に付けていただく。また忘れた人は改めて学んでいただく、そのような教室となるよう、今後継続して企画していきたいと考えております。

もうひとつは、会長が女性ということもあ

り、女性の活躍を期待しているところであります。積極的に行事に参加していただければ幸いです。

最後になりましたが、日本では元旦から能登半島地震が発生しました。そして今度は、中華民国で台湾東部沖地震が起きてしまいました。皆さま御承知とは思いますが、中華民国山岳協会は歴史的に宮城支部と深い縁があります。中華民国山岳協会の前身である台湾山岳会の創立者の一人は、我が宮城支部の大先輩であり、当会の名誉会員でもある平澤亀一郎氏です。現在も宮城支部とは交流が続いております。中華民国におきましては東日本大震災において、私たちは心温まる御支援をいただいたことは記憶に新しいと思います。ここに心より宮城支部としてお見舞いを申し上げたいと思います。会員の皆様に見舞金のご協力をお願い致しましたところ、多大なご賛同をいただきましたことに深く御礼申し上げます。

【役員会議事録】

※2月定例役員会は大雪注意報のため休会

■令和6年3月定例役員会

日 時：3月20日(水)18:00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、高橋、草野、横山、佐藤(昭)、鳥山、計9名

千石支部長より「年度末、最後の役員会となり、次年度の事業を詳細に詰めて総会を迎えたい」と挨拶、議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告(冨塚)

(1) 会長ヒアリング(2月5日)について(千石)
全国の支部長、事務局長とズーム会議で開

かれ、新入会員の勧誘、女性会員の数、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組み、本部への要望などについて意見交換した。

(2) 事業報告、活動計画、意見書の提出

支部主催の会員向け山行回数と一般公募の山行回数、並びに講演・講習回数に支部役員会開催回数及び支部報の発行回数などを本部に提出した。

(3) 第11回(1月度)理事会議事録

(4) 第12回(2月度)理事会議事録

(5) 第37回全国支部懇談会(担当神奈川支部)

宮城支部から4名参加の予定。

(6) 支部連絡会議について

9月21日、12月2日、令和7年3月28日、5月30日に開催

(7) ヒマラヤキャンプ講演会のお知らせ

青森支部からメンバー3人による「ヒマラヤキャンプ2023講演会」を4月13日(土)に開催案内あり。オンライン参加も可。

ロ) 山行集会委員会からの報告(千石)

(1) 厳冬期山行(2月4日)実施結果

(2) 早春山行(3月23日)実施計画

※下記掲載の「宮城支部 山行報告」を参照

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告(鳥山)

(1) 「宮城山岳」第28号の編集方針

紀行・随筆コーナーは八尾会員より、また新入会員紹介コーナーは石川会員より原稿が届いた。役員の皆様にも是非ご投稿を。

(2) 「宮城山岳通信」第32号の編集方針

今年度も年3回(29号・30号・31号)で終わる。来年度は年4回発行をめざす。

二) 他委員会からの報告(冨塚)

○山岳古道調査特別委員会からの報告

宮城支部から5つの古道のテンプレート、写真、写真のキャプション、手書き地図、GPSの5項目を本部へ送った。これから本部

で精査し、最終確認や問い合わせ等が支部に寄せられる可能性もあり、来年度も「山岳古道調査特別委員会」は設置したままにする。

《審議事項》

(1) 令和6年度総会資料について(冨塚)

第1号議案(令和5年度事業報告)、第2号議案(令和5年度収支決算報告)、第3号議案(令和6年度事業計画案)、第4号議案(令和6年度収支予算書案)を検討、審議した。

その中で3号議案の公益事業「(2)登山教室事業」について千石支部長より、これまで支部担当者による登山指導から外部の講師を招いて実施する提案があった。具体的には“初心者のためのセルフレスキュー講座”とし、東京都山岳連盟レスキュー隊の渡邊輝男氏を招いて実施するプランを説明。

これに対して、東京の専門家を招聘する前に、地元の専門家を先ず選ぶべきではないか、また募集人数や講師謝礼、交通費(宿泊費)などは、どうするのか?など質問が出された。

支部長から、昨年「山の天気ライブ授業」を実施した結果、参加者が数多くあり、その中から入会する会員が複数あった。このことから「登山教室」に参加してみたいと思う魅力ある形にリニューアルしたい旨が話された。

結果、公益事業の登山教室(案)は了承された。ただ、この案の費用概算が不明なため、4号議案の収支予算書を再度提出することにした。

(2) 日本山岳会宮城支部個人情報保護管理規定について(冨塚)

宮城支部会員名簿を作成する上で必要な個人情報保護管理規定について説明。これに対して柴崎会員より、「規程」という表記より「指針」の方にすべきと意見。それに沿って作成し、今度の総会に諮ることにした。

《その他》

4月以降の役員会開催場所は

「仙台市生涯学習支援センター」に変わります。

住所：仙台市宮城野区榴岡4丁目1-8

電話 022-295-0403

仙台駅東口の仙台ガーデンパレス隣のビルで、
仙台市榴岡図書館が入る同じビルです。

【宮城支部 山行報告】

厳冬期山行

報告者 千石信夫

実施日 令和6年2月4日(日)

山域 南蔵王 後烏帽子岳(1681m)

行程 えぼしリゾートスキー場の駐車場

8:30 集合～9:20 かもしかリフト終点～11:

30 後烏帽子岳～13:20 かもしかリフト終点～

14:10 ゴンドラ終点～14:30 ゴンドラ乗り場
着

参加者 千石信夫(C L)、細川光一(S L)、
富塚和衛、草野洋一、松元秀平、鈴木則文、



▲樹林帯を縫うように登って行く

鈴木泰子、八尾寛、石川弘子、
ゲスト=佐藤俊幸 以上10名

厳冬期山行としましたが、いみじくも立春の日であったので、春山山行というべきかもしれませぬ。

朝8時30分、えぼしリゾートスキー場の駐車場に全員集合。身支度を整えゴンドラ乗り場に行き、登山届を提出。宮城県には提出しているが、ここはスキー場独自に管理されており届が必要となっている。下山したらチケット売り場に報告するように指示を受けた。

天候は曇りで条件は悪くはない印象だった。ゴンドラからリフトを乗り継ぎ、かもしかリフト終点でワカンを履き歩きはじめる。



▲中腹にて休憩

樹林帯を縫うように右に左に進んでいく。先週の下見に歩いた状況より、幾分雪が締まってきたようで比較的歩きやすかった。先頭は細川さん、ルート上、木の枝などに赤布を付けながら進んでくれた。ラッセルを交代しながら進むにつれて、風がだんだん強くなって視界も悪くなり、山頂では暴風状態の中で記念写真を撮り早々に下山した。

下山途中には雲の晴れ間に青空が見え隠れし、きれいな雪景色を見ることができた。途中で昼食を摂った後、かもしかリフト終点からスキー場の脇を歩き、ゴンドラ終点からゴ



▲後烏帽子岳山頂で暴風のなか記念撮影

ンドラを利用し駐車場まで下山した。

今回の参加者は、雪山デビューの人などや新しい顔ぶれのメンバーが多く参加していただき、若返りを感じる山行だった。

早春山行

報告者 鈴田泰子

実施日 令和6年3月23日(土)

山 域 西吾妻山(2035m)

コース 天元台スキー場リフト終点～中大巔南側より梵天岩手前(天候不順により途中撤退)～天元台スキー場リフト終点

参加者 千石信夫(L)、鈴田泰子、八尾寛、能勢真人、ゲスト=佐藤俊幸 以上5名

頑丈な木組みの雪囲いの残る米沢市内を抜けて、天元台スキー場のロープウェイ乗り場に集合した参加者は、雪深い西吾妻山に向けて活動を開始した(8:30)。ロープウェイで高度1300[㍊]地点まで上がり、3基のリフトを乗り継いで積雪420[㍊]と観測される1820[㍊]地点に降り立ち(9:15)、スキー場の一角で和カンジキを装着して歩行を始めた(9:30)。

雪氷で美しく装ったオオシラビソに囲まれた樹林帯では、先行者のトレースが比較的よく確認できた。振り返ると、樹林の向こうに

飯豊連峰の山並みが見える。山肌の雪の白に薄墨の山壁が混ざり合い、息を呑むような遠望であった。中大巔を巻くようにしてカモシカ展望台付近へ前進すると、梵天岩が確認できた(10:05)。3月とはいえ氷点下の気温に、厚いグローブに覆われた指先がかじかむ。ときどき顔に当たる雪のつぶて、シュカブラの上を舞う風の冷たさ……。そのような気象条件にも、参加者はみな「楽しいなあ」「雪山はいいなあ」と楽しげである。



▲鞍部 1900m地点にて(10時15分)

ここから天候の変化に備えて雪中に赤布の付いた細竹の設置が開始され、緩やかな下りを経て1900[㍊]地点の鞍部に到達した(10:15)。締まった積雪の上に新雪が重なっているため、ラッセル様の登り方を強いられ、梵天岩手前への手前で小休止した(10:50)。

当初は小雪のちらつく天候であったものの、次第に降雪が強まってホワイトアウトの危険性が高まり、ここで引き返す決定がなされた(11:00)。晴天であれば梵天岩や天狗岩を越えて西吾妻山の山頂から見渡す限りの樹氷原を目にすることができたろうが、その光景を眺めるのは先々の楽しみとしよう。

強風を避けて1860[㍊]地点まで下ったところで大休止とした(11:40)。3名が持参したスコップで雪を掘り、残る2名は圧雪に協力し、真っ白な雪のダイニングテーブルとベン



▲雪のダイニングで昼食を(11時58分)

チが出来上がった。雪の女王の宮殿に勝るとも劣らない食卓を囲み、フラッグを掲げて記念撮影した。こうして心ゆくまで雪山登山の楽しみを味わったのち、再びリフトとロープウェイを利用して天元台スキー場のロープウェイ乗り場へ戻り、再会を約して笑顔で解散した(13:30)。

【今後の行事予定】

- ☆5月5日(日) 第13回親子登山教室
戸神山
- ☆5月15日(水) 5月定例役員会
※仙台市生涯学習支援センター(東口)
- ☆5月18日(土) 春山山行(場所検討中)
- ☆5月25日(土)・26日(日)
第37回全国支部懇談会(主催:神奈川支部)
～春の湘南平・三浦アルプス～
- ☆6月19日(水) 6月定例役員会
仙台市生涯学習支援センター(東口)
- ☆6月29日(土) 露払い山行(場所検討中)
- ☆7月12日(金)・13日(土)
第37回東北・北海道地区集会
主催:福島支部 裏磐梯
- ☆7月13日(土) 第12回登山教室
講師:渡邊輝男氏 (場所検討中)
- ☆7月19日(水) 7月定例役員会
仙台市生涯学習支援センター(東口)

日程、場所が諸事情で変更する場合があります。ご了承ください。尚、場所検討中の山行及び行事は追ってメールで配信します。

お詫びと訂正

前号「宮城山岳通信」第31号の5ページ右欄《報告事項》(5)令和6年度事業計画の提出のあと、赤文字(富塚)を黒文字に訂正。

6ページ左欄の下から8行目、参加者名「千石長」を「千石」に訂正。

11 ページ右欄の全国支部懇談会記事の上から4行目のホテル「座山みなかみ」は、ホテル「坐山みなかみ」に訂正。以上3箇所、お詫びして訂正させていただきます。

令和6年度宮城支部総会のご案内

今年の総会は下記により開催しますので、万障繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

- 日時 4月25日(木) 18:00～
- 会場 仙台市生涯学習支援センター
第1セミナー室C
仙台駅東口: 仙台ガーデンパ
レスの隣のビル

【編集後記】

新年度がスタートしました。若葉の季節が到来すると、俳句の春の季語「山が笑う」と言われます。もともと「咲」という字は「笑」の古字で、“花が咲く”というのは、とりもなおさず“花が笑う”ことなのです。

いよいよ若葉が咲きそろそろ新緑の季節です。今年も数多くの山々に登り、その頂で皆さんの“笑う”声が絶えないことを願っています。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第32号

発行 公益社団法人 日本山岳会宮城支部

発行日 2024年4月17日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、富塚和衛、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中9-12 (富塚宅)

連絡先 TEL 090-2790-3771